

特集

〈事例〉

「安心子育て」を基本理念に 若い世代の子育てを支える

公益社団法人
つくば市シルバー人材センター

(茨城県)

つくば市SCでは、「地域の子育て世代の力になりたい」との思いを原動力に、平成26年12月、「子育て支援ルームきずな」をオープンした。市内在住・在勤者の子どもの一時的預かり事業を実施し、令和元年12月、オープン5周年を迎えた。保育士の資格を有するコーディネーターと女性会員が交代で子どもを見守っている。子育てのベテランによる運営は好評で、実績を上げている。

つくば市は、茨城県の南西部に位置し、東京の中心部から約六十

km、新東京国際空港（成田空港）

から約四十kmの距離にある。面積

は約二八四km²。広い市域全体が筑

波研究学園都市となっており、二

万人超の研究者を有する日本最大

規模のサイエンスシティとして発

展している。秋葉原駅とつくば駅

を結ぶつくばエクスプレスの開通

以降、東京への通勤圏にもなり、

マンションや住宅が増加。人口が

増えていて、約二十三万七千人と

なっている。

一方、田畑の多い地区もあり、

つくば市SCで受注している就業

は、都市型の地区では建物・施設

の管理や清掃業務が、農村地区で

は剪定や草刈り・草取りなどが多い傾向にある。

平成三十年度の会員数は六百四

十三人で、前年度より九人増加し

ている。

子育て支援ルームきずな

少子高齢化が進む中、同センタ

ーでは女性部会を中心に子育て世

代を支援する事業ができないかと

数年前から模索していた。平成二

十五年度に、理事会を含め検討し

協議を重ねた結果、子どもの一時的

預かり事業を実施する方向性を定

め、具体的に推進。安心して子育て

ができる環境を提供したいとの

思いで、平成二十六年十二月、谷

田部老人福祉センター内に「子育

つくば市SCが運営する「子育て支援ルームきずな」



て支援ルームきずな(以下、きずな)をオープンした。

きずなの目的は、子どもたちの健やかな育ちを支援すること。また、女性会員の就業機会の拡充を

目指している。

当初、シルバー人材センターの地域ニーズ対応事業として国およびつくば市の補助金と自主財源を元に運営を開始。現在は、つくば市の地域子ども・子育て支援事業に移行して、同市から施設の無償

貸与と財政的支援を受けて継続しており、令和元年十二月に五周年を迎えた。

きずなの事業内容

きずなは、普段は家庭で子育てをしている保護者が、一時的に子



きずなのスタッフと一緒に、楽しそうに遊ぶ子どもたち。つくば市在住者以外に、市内に通勤する市外在住者の子どもも利用できるのが、きずなの特徴



どもを預けることができる保育施設。保護者の傷病や労働、買い物、冠婚葬祭などさまざまな事情によ

つて一時的に家庭での保育が困難となる、つくば市内外に住む満一歳（離乳食が完了し、託児可能であること）から就学前児童を対象としている。

きずなのシステムと体制は、以下の通り。

●預かり日時

月・火・水・金・土・日曜日の九時～十七時（毎週木曜日、年末年始は休業）。

●利用料金

市内在住者は一時間五百円、市外在住者は一時間六百円。

●利用方法

利用申請書を提出の上、その都度予約をする。利用時は着替え、おむつ、バスタオル、ビニール袋などを持参。昼食時間にかかる場合は弁当を持参。

●スタッフ

保育士などの資格を有するコー

ディネーターと就業会員が組になって保育を行う。

活動状況

きずなを訪ねると、扉の向こうは陽光が降り注ぐ広い和室で、二人の小さな子どもの姿があった。一人は初めて預かったとのことだが、スタッフとしばらく絵本などを楽しんだ後、小さなベッドですやすやと安心した表情でお昼寝タイムに。もう一人の子どもは、スタッフと積み木などをして遊んでいた。子どもを見守るスタッフの穏やかな表情も印象的だ。

スタッフは現在、保育士や幼稚園教諭の資格を有するコーディネーター五人と子育て経験のある女性会員五人がいて、交代で子どもを見守っている。予約状況に応じて、預かる子どもが五人以下の日はコーディネーター一人と会員一人を配置。子どもが六人以上になる日は会員を一人増員する。子どもの定員は十人。

取材日に就業していた会員の吉田千代子さんは、保育の仕事はここで初めて携わったと言う。「いろいろと教わり、楽しみながら働かせてもらっています。小さなお子さんと一緒にいると、わくわくした気持ちになります」と笑顔で就業を語り、「私も会社勤めをしながら三人の子育てをしました。今、頑張っているお母さんやお父さんの力になれば、と思っています」と続けた。

コーディネーターの市村文子さんは、ぎずなのスタッフになって一年未満。幼稚園教諭、保育士として五十年に及ぶ仕事経験を生かし、保育に関する講演を行うこともあるというが、「何年やっても子どもと接していると発見や気づきがあります。保育士は天職と感じていて、ここで今、保育の仕事が続けられていることが生きがいになっています」と話す。

スタッフは、送り迎えの際に保護者のことも気に掛けて、育児の



相談に乗ることもあるという。

情報の共有を徹底

ぎずなの特徴は、保育の有資格者と子育て経験があり、かつ、利用者にとって親世代に当たる女性会員が対応していることで、「安心子育て」を基本理念に、子どもた



ぎずなの就業会員とコーディネーター（写真上）。前列右から2人目が小倉武子施設長

写真左は、ぎずなの内部。コーディネーターと就業会員が、季節を感じさせる装飾を手作りし、広い和室を楽しく演出している。おもちゃや絵本も充実の品ぞろえ

ちを見守っている。

利用者の信頼を得るためにスタッフが心掛けていることについて、保育士として豊富な経験を持つ宮崎文子コーディネーターは、「担当した日の出来事や伝達事項を日誌に記し、コーディネーター間でしっかりと申し送りをする。そ

れから、迎えにいらした保護者の方に、預かっている間のお子さんの様子を具体的にお伝えすることです」と語った。

さらに、コーディネーターと就業会員の全員で毎月一回会議を開いて情報を共有すると同時に、必要事項について理解を深めることに努めている。

そうした日々を重ねて五年。事業の立ち上げから力を注ぎ、ぎずな施設長としてスタッフをまとめて担当者の配置をするほか、自らも就業会員として活躍する小倉武子施設長は、「つくば市には、知り合いも親戚も近くにいないという転動のご家族が多いので、子育ての中で困ったときの助けになりました」という思いで取り組んでいます。開所まで時間がかかりましたが、市の協力で現在の場所が決まり、保育士に加わってもらってチラシ配りなどで周知して、徐々に利用者が増えていきました」とオープン当初を振り返る。そして、「保護

者の方から感謝の言葉を頂くことが多く、スタッフの喜びになっています」とうれしそうに話した。

ただ、人材がそろい、気持ちがあつても、円滑に事業を進め黒字化することは容易ではないようだ。

事業の黒字化に向けて

きずなが所在する谷田部老人福祉センターは、つくばエクスプレスのみどりの駅から車で十分ほど。つくば市の南に位置する。市域が広いため、誰でも知っているという場所ではない。きずなでは利用者拡大のため、チラシ配布によるPR活動のほか、当初はつくば市在住としていた対象者を平成二十八年二月からつくば市内へ通勤する市外在住者の子どもにも広げた。

さらに、口コミなどで少しずつ認知度が高まりつつあった平成二十九年年度、きずなの取り組みがNHKで全国放送された。この反響は大きく、利用者増につながった。平成三十年年度の開設日数は三百三

日、保育時間は四千三百八十四時間に上り、延べ利用者数は九百十二人であった。

しかし、短時間の利用者が多いと事業としては厳しいことから体制の見直しを図り、それまで終日配置していた人員を、予約時間に合わせた配置と改めた。また、平成三十一年四月から、毎週木曜日を定休日にした。

これらの見直しによって、平成三十年度には黒字となり、令和元年度も順調に実績を積み上げている。昨今は、特に土・日曜日の利用者が増えているという。

課題と今後の方向

小倉施設長は「利用者数が伸びているので、今後も理事会、事務局と連携して、採算を考えながら引き続き若い子育て世代の力になっていきたい」と力強く語った。

宮崎コーディネーターは「予約の受け付けや担当スタッフの配置などについて、今は小倉施設長の

業務の負担が大きいのので、無理のないようにシステム化する方法などを皆で検討していきたい」と課題を挙げた。

宇都宮章理事長は「人口が増加しているつくば市では、待機児童の解消が大きな課題の一つになっています。市長と対談する機会があると、子育ての話がいつも出ま

す。きずなへの期待も大きいと感じています」とつくば市における子育て支援事業の意義を語る。

國府田修事務局長も「市からも期待されている事業ですし、継続して市民の役に立ち、また、会員の就業の場としてさらに活発になるように可能な限りのサポートをしていきたい」と今後を語った。

きずなの継続に向けて宇都宮理事長は、「PRにさらに力を入れたい」とし、若い世代がネットで検索しやすいようにセンターのホームページを工夫することや、従来から続けている市内のイベントなどでの普及啓発活動に注力してい

くと具体的に語った。そして、「きずなの利用拡大を図り、就業会員をさらに増やすことができれば、女性会員の活躍の場として広がっていく。そこを目指していきたい」と今後を見据えた。

(増山美智子)

事業運営状況 (平成26年度～平成30年度)

年度	会員数			粗入会率	就業実人員 (延人員)	就業率	受注件数	契約金額	公民比
	男	女	計						
平26	527	168	695	1.3	421 (60,114)	60.6	5,047	332,745	21.4/78.6
27	473	159	632	1.2	520 (61,203)	82.3	5,070	339,178	22.2/77.8
28	450	155	605	1.1	506 (59,278)	83.6	3,897	342,461	22.6/77.4
29	467	167	634	1.1	533 (60,152)	84.1	3,863	355,957	24.8/75.2
30	467	176	643	1.1	495 (56,913)	77.0	4,624	352,590	25.3/74.7

※受注件数、就業延人員、契約金額は請負・委任と労働者派遣事業を合計した数値
 ※就業実人員は平成29年度まで請負・委任、30年度は請負・委任と労働者派遣事業が対象